

報告日 令和7年12月10日

報告回次 1日目

令和7年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	北陸未来共創フォーラム観光分科会			代表者名	飯山宏一
担当者部署(属性)	その他	担当者部署名	なし	連絡先電話番号	08030847329
担当者役職	なし	担当者氏名	田中直史	連絡先E-mail	
住所	9201192 石川県金沢市角間町				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名	福井県	連絡先部署	交流文化部 インバウンド交流課 インバウンド受入グループ		
担当者氏名	斉藤 太樹	連絡先電話番号	0776-20-0546	連絡先E-mail	

1-3. 支援を求める内容

支援方法	トップセミナー	事業名	北陸未来共創フォーラム		
概要	北陸3県の観光データ（主にアンケートデータ）を利用したハッカソンの審査員				
支援を求める分野	オープンデータ 観光				

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1.

対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	無				
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和7年12月7日	講演(実地)	9時00分	18時30分	90
				活動時間（分）	480

2-2.

派遣場所	会場名	カグ〜ル	最寄駅	敦賀
	所在地	福井県敦賀市神楽町1丁目1-5	最寄駅からの交通手段	徒歩

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	下山 紗代子
評価	大変良い
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	単なる評論や寸評にとどまらず、データ加工の実作業にもご協力いただきました。さらに、他都道府県における豊富な知見や事例を踏まえ、プロダクト制作に対して具体的かつ適切な助言と技術的支援を随時いただきました。また、全体総括の場においては、本取組の今後の方向性について示唆に富むアドバイスをいただくとともに、北陸三県データの活用にとどまらない分析手法やアプローチの可能性についても道筋を示していただきました。また、常に参加者と目線を合わせ、同じ立場で伴走するように寄り添っていただく姿勢が大変印象的で、その姿勢に強い信頼と好感を抱きました。
アドバイザーへの要望事項	本事業に対して十分かつ的確なご支援をいただいております、現時点で要望事項はありません。

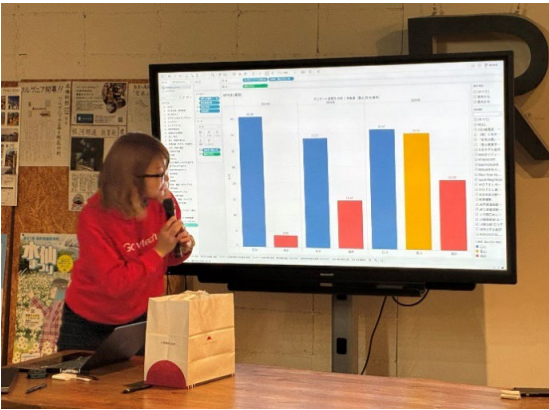


4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者

属性	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】		合計人数	15人
	自治体職員	住民	企業・団体	その他(学生など)
人数	1	0	14	0

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	富山・石川・福井の三県と連携し、観光アンケート等のデータ整備・公開を進めている中で、以下が課題となっている。 1. 三県間でデータ形式・項目・定義・更新頻度が統一されておらず、横断的な分析が困難であること。 2. データ連携に関する標準化された運用ルールが未整備で、継続的なデータ流通・共有の基盤が脆弱であること。 3. 自治体や地域事業者におけるデータ活用人材が不足し、データに基づく意思決定や事業改善が十分に行えていない現状があること。 4. データ整備・分析を進めるための専門知識やアドバイスを受けられる体制が不足していること。
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	アドバイザーに専門的知見から指導・助言をいただくことにより、統一仕様の策定、データ連携基盤の構築、関係者への研修・伴走支援体制の構築を目指す。

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)		ハッカソンにおける各チームのプロダクトに対する審査および講評を通じて、技術面・実用面の双方から評価と助言が行われた。あわせて、観光データの適切な利用方法やデータ構造に関する基本的な助言を受けるとともに、他府県における先行事例を踏まえた具体的な活手法や運用上の留意点についても示された。これにより、参加者はデータ活用の実践に向けた具体的な指針を得ることができ、今後の展開に向けた視座の整理につながった。	
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)		1. 三県間で不統一であったデータ形式・項目・定義・更新頻度については、共通フォーマットの整理と項目定義の統一が進み、三県横断での分析が可能な状態となった。 2. 未整備であったデータ連携の運用ルールについては、データ提供・更新・公開に関する基本的な共通ルールの整理が行われ、継続的なデータ流通・共有の基盤が整備された。 3. 自治体や地域事業者に不足していたデータ活用人材については、ハッカソンを通じた実践的なデータ分析・活用の経験により、参加者のデータ活用に関する理解と実務対応力の向上が図られた。 4. 専門的な知識や助言を受けられる体制が不足していた点については、アドバイザーによるデータ構造整理、分析手法、UI・UX、運用モデルに関する助言を受ける体制が構築され、今後の実装・展開に向けた指針が明確化された	
具体的な成果物		最も当てはまるものをリストより選択下さい。	②事業に係るシステムを構築できた
		三県の観光オープンデータを使用し、下記のアプリケーションを開発した。 1. 福井県の観光データを可視化し、来訪者行動の分析を容易にするWebアプリケーション。観光事業者・自治体の意思決定支援ツール(EKKA'S) : https://code4fukui.github.io/ekkas/ 2. 富山県の観光アンケートデータを基に、訪問者像や来訪目的などの分析結果を「質問の答え」として提示するWebサービス (かんこーでーたくえずちゃん) https://toytos.fem.jp/wordpress/home/ 3. 石川県内の観光スポットと交通情報を用い、最適な移動ルートを提示するアプリケーション 今回使用した観光アンケートデータを日常的に扱う、観光部署の行政職員の参加があったことで、課題を的確に捉え開発を進めることができ、成果につながった。	
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)		参加者においては、データ構造の整理方法や分析視点への理解が深まり、観光施策や事業改善においてデータを活用する具体的なイメージを持つことができるようになるなど、一定の知識向上および実践的スキルの獲得という点では、当初の目的を概ね達成することができた。 一方で、こうした成果はあくまでハッカソン参加者約15名に限られたものであり、北陸三県全体の自治体・観光事業者・関連団体への普及という観点では、依然として十分とは言えない状況である。また、短期間のハッカソン形式という制約上、データ連携の恒常的な運用体制の構築や、三県横断で共通利用できる実装レベルのシステム整備にまで踏み込むことは困難であった。さらに、データ活用を持続的に推進していくための専門人材の育成や、日常業務にデータ活用を組み込む組織体制の整備についても、今回の支援のみでは十分に解決するには至っていない。 今後は、本ハッカソンで得られた成果やノウハウを、研修会や実証事業、モデル事例の展開などを通じて三県全体へ波及させるとともに、継続的な伴走支援や人材育成の仕組みづくりが引き続き必要であると考えている。	
アンケートの内容と分析結果		講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。) アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。	
		データ利用や整備・構築にかかる内容であるため、アンケートは実施していない	
4-3. 今後の計画		最も当てはまるものをリストより選択下さい	②次年度に予算化を図り推進する
4-4. 事業の最終的な目指す姿		富山・石川・福井の北陸三県において、観光データをはじめとする各種データを三県横断で安定的に利活用できる共通基盤を構築し、自治体、観光事業者、教育機関、金融機関等が連携しながら、データに基づく持続的な観光施策と地域経営を実現することである。 これにより、観光動向の的確な把握、混雑対策や交通施策等の最適化、観光消費の拡大、地域経済の活性化を図るとともに、観光を通じて住民・来訪者双方の満足度と幸福度が高まる「観光によって幸福度のあがる地域づくり」の実現を目指す。	
5. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可			
掲載許可		<input type="radio"/> 掲載可	
なおくその他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください			
6. 地域情報化アドバイザー支援の様子			
今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG等)」を数枚程度貼り付けて下さい。			
<div></div>			